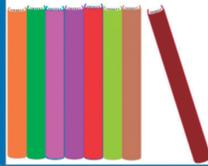




大人が絵本を 第45回 平和って何だろう？



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

「平成」にこめられた願い

世紀をまたいだ平成も、残すところ1年を切りました。その元号の由来をおさらいしてみますと、『史記』五帝本紀の「内平外成(内平らかに外なる)」と、『書経』大兎諷の「地平天成(地平から天成る)」を出典とし、その意味合いとしては「国の内外にも天地にも平和が達成されるように」との願いがこめられているといえます¹⁾。

その平成時代後期の安倍内閣は、戦後の平和主義の基軸となってきた日本国憲法9条の改憲案を進めようとしています。憲法9条には、「戦争放棄」と「戦力不保持」、「交戦権否認」が明記されています。国家間で摩擦が生じたとき、武力ではなく話し合い、つまり「言葉」の力で解決しようとする精神です。ところが、安倍総理はこの第9条(第1項、第2項)を維持した上で、「自衛隊」の存在を追加しようとしています。平和とは何でしょうか。武力によって平和を守るという考え方が「平和」なのでしょうか。これで、子どもたちに説明がつかうのでしょうか。

平成最後の夏がやって参りました。毎年、夏になると学校では平和学習が行われ、新聞やテレビで「戦争と平和」の特集が組まれます。折しも、世界で、日本で、平和を揺るがす出来事が立て続けに起こり、私たちは危機感を感じざるを得ない境地に立たされています。時代の節目となるこの夏、大人が平和について、今一度、じっくりと考えてみませんか。

とどけ! 『おかあさんのいのり』

新しい生命が誕生するということ、母になるということ、女性にとっては「命がけ」であり、神秘的であり、幸福に満ち溢れた人生のできごとです。愛お

しい気持ちを抱くときです。お母さんが願うのは、かけがえのないわが子の健康と幸せでしょう。そんな風に命がけで出産し、愛情を注ぎながら育てたわが子が、争いのための戦闘要員になるなど、想像するにも身が裂けてしまうでしょう。母親の子どもへの愛情は万国共通なはずです。

「わたしの赤ちゃん、その手がどうか銃などにぎりませんように」²⁾

自分の子どもの命を守りたい、自分の子どもが他者の命を奪うことから守りたい、子どもの平和を守りたいと祈る母親の切なる言葉が響きわたる絵本が、『おかあさんのいのり』です。



『おかあさんのいのり』

武鹿悦子 作

江頭路子 絵(岩崎書店)

「戦争はよくない」と漠然とながら分かっている、難しい社会情勢や政治のことはよく分からないというお母様方にも、平和の願いがすーっと伝わる一冊です。生命の尊さと儚さ、授かることの奇跡、そんな大切な生命をむやみに戦争が奪ってよいものでしょうか。やさしいタッチのイラストが、反戦への祈りを魂に訴えかけます。



「戦争しない」国・日本

イラク戦争初期の2004年、人道復興支援として陸上自衛隊をイラクへ派遣した際の活動記録について、「存在しない」と言い続けてきた防衛省でしたが、今年4月、日報の存在が発覚し、延べ435日分を公表しました。陸自の派遣先は「非戦闘地域」に限定され

手にするときは！

なぜ、戦争はなくならないの？

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

ていたはずなのに、日報には「戦闘」の言葉が並び、「銃撃戦」との記載も残されていました。また、公表したといえ、その内容は事実の半分以下で、なおも証拠隠滅はこの事案に納まることなく、その後、次々に隠されていた実態が明るみとなり、遂には、国連平和維持活動に派遣中の陸上自衛隊が、全員に武器携行命令を出していたことが発覚しました。2016年の南スーダンPKOで、本来「紛争当事者間の停戦合意」など5原則を満たすことが参加条件のはずが、その根拠が崩れていたことが判明したのです。

日本は、憲法で「戦争放棄」「戦力不保持」「交戦権否認」が保障されており、「戦争しない」国のはずです。しかしながら、憲法9条の改憲案が示されたり、自衛隊の活動実態が明かされたりすることによって、「戦争しない国」から「できる国」への不穏な空気が流れています。私たちの知らないところ、見えないところで、平和を維持する安全保障が少しずつ変えられていっているようです。

声高々に『せんそうしない』

「ちょうちょとちょうちょはせんそうしない」³⁾に始まる絵本『せんそうしない』は、終戦から70年の節目の2015年夏に、詩人・谷川俊太郎氏が紡ぐ言葉によって発行された反戦絵本です。金魚や木などの生きもの同士は「せんそうしない」と訴えます。そして、「せんそうするのは、おとなとおとな」と言い、その理由を「自分の国を守るため、自分の子どもを守るため」と説明します³⁾。

子どもたちの未来を想像してみましょう。子どもたちと、そのまた子どもたち、永遠と続くはずの子孫に未来はあるのでしょうか。平和な未来は待ち受けているのでしょうか。「戦争反対」と言うのではなく、

「せんそうしない」と言い切る言葉には力があります。

幸せな暮らしとは？ 平和とは？

平成30年に入ってから、国内外で「平和」を脅かす出来事がこれまで以上に頻発しています。米英仏3か国は4月半ば、シリア首都ダマスカス近郊などの化学兵器関連施設の計3か所を100発以上のミサイルで限定的に攻撃しました。トランプ政権は化学兵器使用疑惑より攻撃に踏み切ったとしましたが、専門家の検証では決定的とは言い難く、国際社会の十分な理解を得られていないと報じられました⁴⁾。

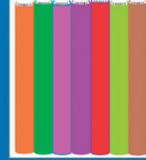
「せんそうするのは、おとなとおとな」³⁾。大人と大人の戦争とは、一国の大人同士の内戦もありますし、国と国との戦争もあります。シリア攻撃には、両者が絡んでいて複雑怪奇な構造を招き、事態が悪化しました。国が強いとはどういうことでしょうか。『ぞうのエルマー』シリーズで人気の絵本作家デビッド・マッキー氏が問いかける「戦争とは何か」を考える絵本『せかいでいちばんつよい国』を紹介しましょう。

大きな国の大統領は、その国の人々が信じている「自分たちの暮らしほど素敵なものはない」という思いをもっと深くしたいと考え、世界中にある小さな国を征服すれば、自国民と同じように最高の暮らしができるだろうと、世界一の軍隊と武器を使ってたくさんの国を征服します。最後に、ひとつ残った小さな国を征服に行くのですが、大きな国の兵隊は、



『せかいでいちばんつよい国』
デビッド・マッキー 作
なかがわちひろ 訳
(光村教育図書)





軍隊のない小さな国の人々とのかわりによって、幸せな暮らしとは何かということに気付くのです。相手国を支配することが国の強さでしょうか。武器による攻撃で相手を脅し、破壊する力をもった国が強いのでしょうか。

言葉の力は、平和の力

米英仏によるシリア攻撃から2日後には、シリアで毒ガス流出が確認されました。アメリカとロシアの対立を背景に、ロシア軍またはアサド政権軍が投下した爆弾か、反体制派が米軍などの懲罰空爆を呼び込もうとした自作自演か検証が行われましたが、「強い直接証拠は出てきそうにない。真実は明らかにならないだろう」と報道されました⁵⁾。

「せんそうするのは、おとなとおとな」³⁾。疑問に感じている子どもたちはきっと大勢いることでしょう。「どうして話し合いをしないの?」「なんでミサイルで攻撃しなくちゃならないの?」と。このような質問を子どもに尋ねられたら、大人の皆様は何と答えますか。

第一次世界大戦から100年目の2014年にフランスで刊行された絵本『そらいろ男爵』は、爆弾の代わりに、打撃力のある12巻の百科事典を投下するというお話です。百科事典だけではなく、多様なジャンルの書物を落として、「おたがいに話をするきっかけをつくったのです」⁶⁾。平和をもたらす「言葉の力」、「本の力」で解決しようとする精神を、子どもたちに分かりやすく伝えます。

言葉にも挑発的であったり、攻撃的であったりして、相手を逆上させる戦闘態勢もあるでしょう。だからといって武力では何の解決もできませんし、罪のない命を奪う悲惨な事態しか招きません。例え、制圧したとしても、幸福が訪れることなどありません。人間だけに与えられた「言葉」の力を信じて、口論になったとしても武力に頼らずに、第三者や隣人に介入してもらい、話し合いで解決する姿を子ども

『そらいろ男爵』
ジル・ボム 文
ティエリー・デテュー 絵
中島さおり 訳
(主婦の友社)



たちに見せてほしいものです。もっともシリアの内戦では、ロシアやアメリカが介入することで、過激さを増すという事態を招いているのですが…。

「言葉」の力を「平和」の力に

「言葉の力は、平和の力」と書き綴っている最中、朝鮮半島南北首脳会談、中朝会談、日中韓会談と、国の元首同士の話し合いが相次ぎ、世界中が注目しました。武力ではなく、話し合いをする「大人と大人」の姿を見せつけたのです。しかし、その直後、世界にさらなる衝撃が走ります。アメリカの核合意離脱を巡り、イスラエルとイランが軍事衝突に突入することを懸念する報道が飛び交い、とうとう、イランの革命防衛隊がイスラエル軍拠点をロケット弾で攻撃すると、これに対してイスラエル軍はシリア領内のイラン関連の軍事施設を報復攻撃したのです。世界は今、中東から目を離せず、緊張感が走っています。

「せんそうするのは、おとなとおとな」³⁾。武力攻撃には武力で返す、何とも醜く空虚な争いでしょう。

なぜ戦争をするのか?

「この世に、なぜ戦争がおこるのだろうか? - その問いに答えた世界のベストセラー」⁷⁾と表紙に記された絵本があります。『せかいでいちばんつよい国』と同じ作者が描いた『六人の男たち なぜ戦争をするのか?』は、人類の歴史において何度も繰り返された戦争という愚かな行為がテーマで、未だにその危険を含んでいる人間に、警鐘を鳴らし続けているロングセラー絵本です。六人の男たちは、平和を求めて

たどり着いたはずの土地で豊かさを求めるがゆえ、戦争を引き起こすこととなります。「なぜ戦争をするのか?」、平和を願いながらも“平和な暮らしを守るため”に抵抗勢力を作る二面性や、富を持てば持つほど疑心暗鬼が強くなっていく矛盾した構造で、戦争の起こる過程を見事に視覚化しています。

カラフルな『ぞうのエルマー』のイラストとは対照的な、色付けもされていない細い黒一色による線画のシンプルな絵は、しかし強いメッセージ性があります。この絵本こそ、世界中の大人たちに、各国の政権を握る大人に、そして日本のすべての大人に読んでいただきたい一冊です。



絵本で伝える戦争と平和

戦争絵本といえば、1980年代初めまでは『戦火のなかの子どもたち』(岩崎ちひろ作)や『ヒロシマのピカ』(丸木俊 作)に代表されるような、戦争の事実だけを表現した作品に占められていましたが、その後、作者の思いが描かれた作品が出現するようになり、表現方法は多様になりました。また、戦後70年目の2015年には、平和への願いを訴える絵本が多数出版されました。戦争体験のない大人が、未来ある子どもたちへ戦争と平和について伝えるには、大人自身がしっかりと向かい合い、思考する必要があります。

作者目線で描かれていたり、作家の思いがこめられていたりすると、読み手にメッセージとして伝わりやすく、また、イメージ化され、思考につながりやすくなります。それは大人でも子どもでも同様です。



大人と大人は、戦争しない!

日本で取り上げられる戦争の歴史は、原爆投下を筆頭とした被害目線が圧倒的で、絵本もそうでした。「戦争と平和」を語るうえでは欠かすことのできない加害者側の絵本『くつがいく』を最後に紹介します。

作者は『てんてんてん』や『ひまわり』(共に福音館書店)など多数の赤ちゃん絵本を刊行している和歌

山静子氏で、その絵のタッチにより小さな子どもたちにも伝わりやすい構成になっています。日本の兵士が海を渡って他国を踏みにじった戦争を、兵士の靴を通して描いているのです。本書は2007年に、日本、中国、韓国総勢12名の絵本作家で立ち上げた“平和絵本プロジェクト”より生まれた「日・中・韓平和絵本」シリーズ(童心社)の1作品です。3、4歳のときに戦争を体験した和歌山氏は、「日本がどんなにひどいことをアジアの国々にしていたのか、少しずつ大人になっていく間に本当のことを知った」そうです。だから、「日本が侵略した事実を、絵本として描くことに苦しんだ」と吐露しています。実際に、この作品を描き上げるのに8年を要し、絵本作家として50年以上の経歴を持つベテラン作家は「こんなに長くかかって描いたのは、絵本を描き始めてはじめてのこと」と話しています⁸⁾。

国内外の情勢が刻々と変化していく中、平和への願いを子どもたちや次の世代へ、どのように語り継いでいけばよいのか、私たち大人は今、問われています。そんな私たちの力強い味方となるもの、それは絵本です。この夏、小児歯科医療に携わる大人の皆さまへ、宿題をお出ししましょう。



文献

- 1) 歴史と元号研究会: 由来と意味がよくわかる日本の元号 - 平成から大化まで, KADOKAWA, 東京, 2012, pp.20-23.
- 2) 武鹿悦子 文, 江頭路子 絵: おかあさんのいのり, 岩崎書店, 東京, 2012.
- 3) 谷川俊太郎 文, 江頭路子 絵: せんそうしない, 講談社, 東京, 2015.
- 4) 西日本新聞社: 米英仏 シリア3施設攻撃 - 化学兵器使用断定 明確な証拠示さず, 西日本新聞, 2018. 4.15, p.1.
- 5) 西日本新聞社: 化学兵器? 屋上にボンベ - シリア「現場アパート」ルポ, 西日本新聞, 2018. 4.21, p.5.
- 6) ジル・ボム 文, ティエリー・デデュー 絵, 中島さおり 訳: そらいろ男爵, 主婦の友社, 東京, 2014.
- 7) デビッド・マッキー 作, 中村浩三 訳: 六にんの男たち, 偕成社, 東京, 1975.
- 8) 和歌山静子: せんそうはいらない (特集: 戦争と平和を伝える子どもの本), この本読んで!, 15 (2), p.9, 2015.